

気象庁津波防災講演会『過去を知って未来に備える』を開催します

気象庁では、津波防災の日※にちなみ、津波から大切な命を守るため必要な知識をできるだけ多くの方々に改めて知っていただくため、下記のとおり津波防災講演会を開催します。

本講演会は、テーマを『過去を知って未来に備える』として、古文書を読み解き災害現場を歩く歴史地震学の第一人者やお馴染みの気象キャスターが、過去の津波災害をひも解き、今私たちが自らの命を守るために知っておくべきことについてわかりやすくお話しします。また、東日本大震災以降、気象庁が取り組んでいる津波情報の改善についてもわかりやすくお話しします。多数の方のご参加をお待ちしております。

1. 日 時 平成24年11月10日（土）
受付開場12：30 開演13：00 終演予定15：30
2. 場 所 一橋大学一橋講堂（東京都千代田区一ツ橋2-1-2 学術総合センター内）
3. 入場料 無料
4. 定 員 500名（事前申込制）
5. 主 催 気象庁
6. 後 援 内閣府（防災担当）、消防庁、東京都
7. 内 容
講演1：防災講談「お助け庄屋流離譚」
講師：木原 実 気象キャスター・防災士
講演2：「千年一度の巨大地震の例」
－1498年明応東海地震と1707年宝永南海地震－
講師：都司 嘉宣 建築研究所 特別客員研究員
講演3：「津波から逃げる」
－津波警報を活用していただくために－
講師：永井 章 気象庁地震火山部地震津波監視課長
8. 参加方法

事前のお申込み（申込期間：11月8日（木）まで）が必要です。先着順、定員になり次第締め切らせていただきます。詳しくはホームページ

（http://www.jma.go.jp/jma/kishou/info/kouenkai/2012/kouenkai110_oubo.html）
をご覧ください。

なお、座席に余裕がある場合は当日でもご参加いただけますが、座席数に限りがありますことをご了承願います。

※津波防災の日：11月5日。1854年に起きた安政南海地震で和歌山県を津波が襲った際に、稲に火をつけて、暗闇の中で逃げ遅れていた人々を高台に避難させて救った、「稲むらの火」の故事にちなみ定められました。

本件に関する問合せ先
総務部総務課広報室
TEL 03-3212-8341（内線 2126）

【講演 1】

演題：防災講談「お助け庄屋流離譚」（30 分）

講師：木原 実 気象キャスター・防災士

概要： その昔、故郷を襲った地震と津波を研究し、安政元年に発生した安政南海地震の津波から稲むらに火を放って村人の命を救っただけでなく、その後の復興に私財をなげうった庄屋の波乱の人生とは。

テレビのお天気コーナーでお馴染みの気象キャスター木原実さんが講談師となって、大切な命を守るために人は何をすべきか、ご自身創作のお話を巧みなテンポで語ります。



【講演 2】

演題：「千年一度の巨大地震の例

－1498 年明応東海地震と 1707 年宝永南海地震－」（70 分）

講師：都司 嘉宣 建築研究所 特別客員研究員

概要： 東日本大震災の津波は、平安時代初期の869年貞観三陸沖地震以来1142年ぶりの超巨大地震によるものでした。このような千年に一度程度の超巨大津波はミレニアム津波と呼ばれるようになりました。ではこのような、ミレニアム津波は、東海地方、ないし南海地方でも存在するのでしょうか？ そう、存在するのです。直近では東海地方では1498年明応地震、和歌山県や四国地方では1707年宝永地震の津波がまさにこれに当たります。本講演ではなぜそういえるのかをわかりやすく紹介します。

また、首都直下を襲った1855年安政江戸地震について、当時の記録から明らかになった寺院・大名屋敷の被害や液状化の分布と当時の地形との関係についても紹介します。



【講演 3】

演題：「津波から逃げる

－津波警報を活用していただくために－」（30 分）

講師：永井 章 気象庁地震火山部地震津波監視課長

概要： 気象庁は、東日本大震災での未曾有の津波被害を教訓とし、津波警報の改善に取り組んでいます。津波被害の軽減には、避難を促す津波警報の精度向上や迅速な発表とともに、地震発生時に一人ひとりが避難を判断し、迅速に行動することが大変重要です。本講演では、津波から避難する方法や津波の特徴、来年3月に運用を開始する新しい津波警報について、日頃からの備えとしていただけるようわかりやすく解説します。

